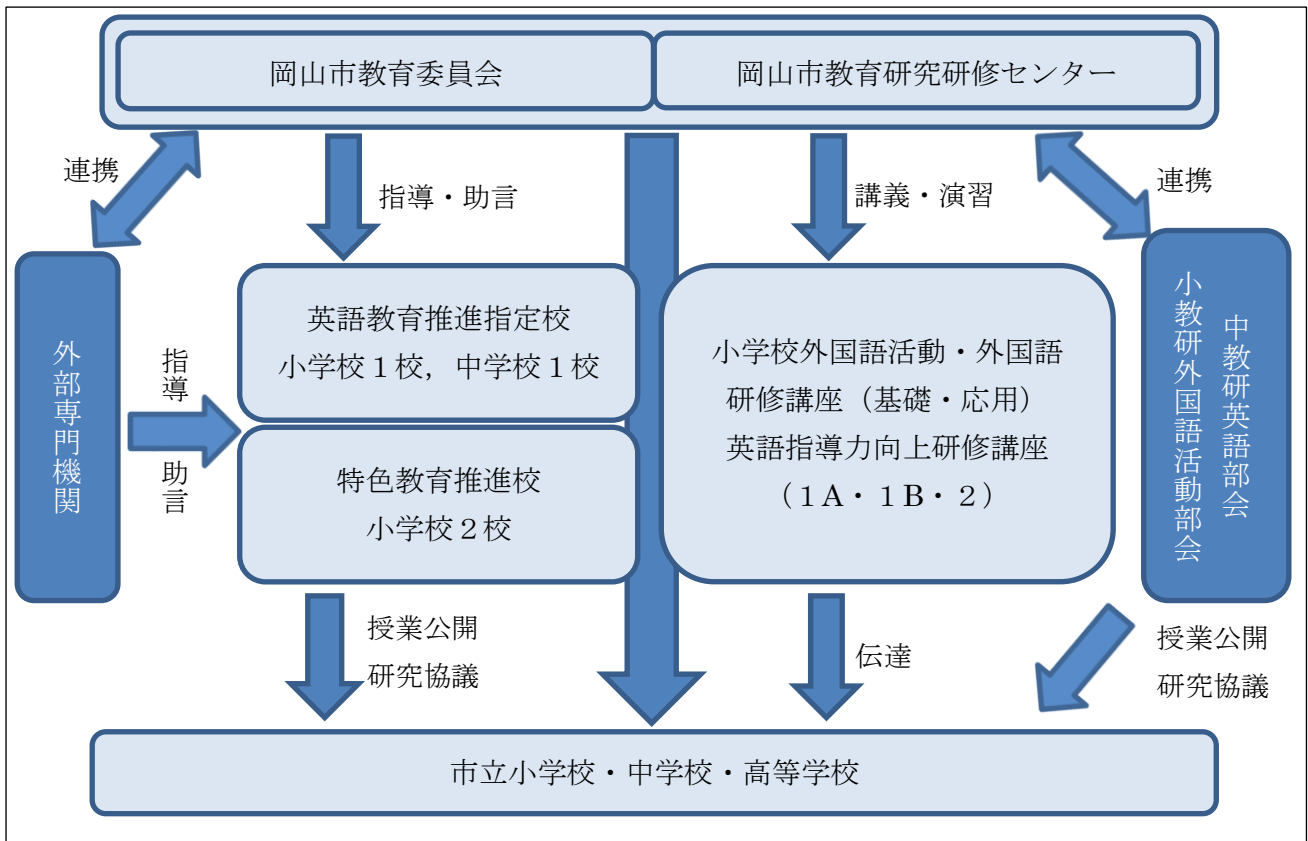


岡山市英語教育改善プラン

実施体制

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○生徒の英語力 求められる英語力を有する生徒の割合 (%)

【現 状】 中学校：41.9% 高等学校：19.3% (平成31年度)

【目標値】 中学校：45% 高等学校：45% (令和2年度)

【手立て】

- ・推進指定校において、新学習指導要領で求められる指導方法・教材開発等について研究を行う。文部科学省教科調査官等を講師に招いた授業公開や研修会での実践発表等を通して市内小中学校に研究成果を還元することで、授業改善を推進し生徒の英語力向上を図る。
- ・外部講師による、4技能を効果的に伸ばす実践的指導法とワークシート、教師の発問等の工夫についての講義・演習を行い、児童生徒の英語力向上のための授業づくりを推進する。

○「CAN-DO リスト形式」の学習到達目標の設定状況等 (%)

【現 状】 中学校：設定100% 公表7.9% 把握18.4%
 高等学校：設定100% 公表0% 把握100% (平成31年度)

【目 標】 中学校：設定100% 公表30% 把握30%
 高等学校：設定100% 公表100% 把握100% (令和2年度)

【手立て】

- ・本市では平成29年度より、市立全中学校(38校)、高等学校(1校)において「CAN-DO リスト

形式」の学習到達目標が設定されているが、公表や目標達成状況の把握している学校は少ない。各校担当者に対する説明会等を通じて、「CAN-DO リスト形式」の学習到達目標の公表や目標達成状況の把握を行うよう指導を行い、状況改善を図る。

○教員の英語力 求められる英語力を有する教員の割合 (%)

【現 状】中学校 : 28.9% 高等学校 : 83.3% (平成31年度)

【目標値】中学校 : 35.0% 高等学校 : 100% (令和2年度)

【手立て】

・令和2年度より3年間の計画で、モデル校に英会話スクール等の講師を派遣し、英語科教員が勤務校で英会話レッスンを受けることで、英語力の向上を図る。また、受講者及び希望者に対して、4技能を測定する民間検定試験の受験料の補助を行う。

・外部団体のプログラムにより、児童生徒の英語力向上を図る授業づくりに必要な英語力の確認と自己分析を行い、教員の英語力に関する意識向上を図る。また、授業づくりに関する演習等を通じて、教員の授業で使える英語力向上を図る。

○授業における、英語による言語活動時間の割合 (半分以上の時間、言語活動を行っている)

【現 状】中学校 : 第1学年 65.7% 第2学年 : 63.2% 第3学年 : 71.6%

高等学校 : 第1学年 57.1% 第2学年 : 66.7% 第3学年 : 100% (平成31年度)

【目標値】中学校 : 第1学年 75.0% 第2学年 : 75.0% 第3学年 : 75.0%

高等学校 : 第1学年 75.0% 第2学年 : 75.0% 第3学年 : 100% (令和2年度)

【手立て】

・「英語教育推進指定校事業」等の公開授業を通して、求められる授業の在り方について共有することや、「英語指導力向上研修講座」を通して、児童・生徒の言語活動を中心に据えた授業づくりについて周知することで、授業改善を推進する。

○パフォーマンステストの実施状況 (回)

【現 状】中学校 : 第1学年 スピーキング 66回 ライティング 39回

第2学年 スピーキング 85回 ライティング 67回

第3学年 スピーキング 85回 ライティング 52回

高等学校 : コミュニケーションⅠ 0回 コミュニケーションⅡ 0回 コミュニケーションⅢ 0回

英語表現Ⅰ 0回 英語表現Ⅱ 0回 (平成31年度)

【目標値】中学校 : 第1学年 スピーキング 115回 ライティング 75回

第2学年 スピーキング 115回 ライティング 75回

第3学年 スピーキング 115回 ライティング 75回

高等学校 : コミュニケーションⅠ 3回 コミュニケーションⅡ 3回 コミュニケーションⅢ 3回

英語表現Ⅰ 3回 英語表現Ⅱ 3回 (令和2年度)

【手立て】

・中学校においては、スピーキングテストを3回、ライティングテストを2回以上実施、高等学校においては、各科目でスピーキングテスト、ライティングテスト合わせて3回以上実施することを目標

に設定し、担当者説明会で周知する。

・実際のパフォーマンスの映像等を用いた評価に関する研修を計画し、実施方法や評価規準の作成等に関する説明を行い、パフォーマンステスト実施の促進を図る。

○英語担当教員の授業における英語使用状況（％）

【現 状】中学校：70.7％ 高等学校：93.3％ （平成31年度）

【目標値】中学校：75％ 高等学校：100％ （令和2年度）

【手立て】

・「英語教育推進指定校事業」等の公開授業を通して、求められる授業の在り方について共有することや、「英語指導力向上研修講座」を通して、児童・生徒の言語活動を中心に据えた授業づくりについて周知することで、英語担当教員の英語使用の促進を図る。

○英語担当教員に対する研修実施回数

・小学校英語教育推進者研修

対 象：小学校18校から各校1名の参加（5年間で全校実施）

研修目的：英語担当教員の指導力向上，英語力向上

・中学校英語教育推進者研修

対 象：中学校英語科教員のうち対象者（5年間で全員実施）

研修目的：英語科教員の指導力向上，英語力向上

・外部専門機関と連携した英語担当教員の指導力向上事業（県主催の研修会に参加）（年4回実施）

対 象：高等学校英語科教員のうち対象者（6年間で全員実施）

研修目的：英語科教員の指導力向上，英語力向上

・小学校外国語活動研修講座（年2回実施：基礎・応用）

対 象：小学校教員（希望者）

研修目的：英語担当教員の指導力向上

・中学校外国語研修講座（年2回実施：基礎・応用）

対 象：中学校英語科教員（希望者）

研修目的：英語科教員の指導力向上

・英語推進指定校事業に係る公開授業研究会（年2回実施：小学校1回，中学校1回）

対 象：英語担当教員（各校1名以上）

研修目的：英語担当教員の指導力向上

・特色教育推進事業に係る公開授業研究会（年2回実施）

対 象：小学校教員（希望者）

研修目的：英語担当教員の指導力向上

○小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

【現 状】5.7％ （令和2年度採用）

【目標値】10％（R2/R3）→20％（R4）→30％（R5）→40％（R6）→50％（R7）

【手立て】

- ・外部（委託）団体のプログラムにより，児童生徒の英語力向上を図る授業づくりに必要な英語力の確認と自己分析を行い，教員の英語力に関する意識向上を図る。また，授業づくりに関する演習等を通じて，教員の授業で使える英語力向上を図る。
- ・小学校教員を対象に受験料の全額助成を行い，外部検定試験の受験を奨励する。
- ・教員採用選考試験において，有資格者に対して優遇措置制度を設ける。

（3）研修の体系と内容の具体

- ・小学校外国語活動・外国語研修講座（年2回実施：基礎・応用）
 対象：小学校教員（参加予定：のべ80名程度）
 研修目的：英語担当教員の指導力向上
- ・英語指導力向上研修講座（年3回実施）
 対象：小学校外国語教育担当者・中学校英語科教員（参加予定：のべ300名程度）
 研修目的：英語科教員の指導力向上，英語力向上
- ・英語推進指定校事業に係る公開授業研究会（年4回実施：小学校2回，中学校2回）
 対象：小学校外国語教育担当者・中学校英語科教員（参加予定：130名程度）
 研修目的：英語担当教員の指導力向上
- ・特色教育推進事業に係る公開授業研究会（年2回実施）
 対象：小学校教員（参加予定：80名程度）
 研修目的：英語担当教員の指導力向上

（4）年間事業計画

月	岡山市の取組	外部専門機関等
6月	英語教育推進指定校事業 公開授業研究会（小学校）	文部科学省調査官等
6月	英語教育推進指定校事業 公開授業研究会（中学校）	文部科学省調査官等
6月	英語指導力向上研修講座①A	外部講師
7月	英語指導力向上研修講座①B	外部講師
8月	小学校外国語活動・外国語研修講座（基礎）	
8月	小学校外国語活動・外国語研修講座（応用）	
8月	高等学校英語研修講座（高等学校）県の研修に参加	
10月	特色教育推進事業 公開授業研究会（小学校）	大学教員
11月	英語教育推進指定校事業 公開授業研究会（小学校）	文部科学省調査官等
11月	英語教育推進指定校事業 公開授業研究会（中学校）	文部科学省調査官等
1月	英語指導力向上研修講座②	外部講師
1月	特色教育推進事業 公開授業研究会（小学校）	大学教員
調整中	研修協力校公開授業・研究協議（高等学校）県の事業に参加	

